

飼料用トウモロコシ不耕起栽培の収量性(追補)

【成果概要】

飼料用トウモロコシの不耕起栽培は、慣行の耕起栽培より初期生育が優れ、6年程度の連続栽培では乾物収量は耕起栽培と同等である。



表 1 播種時の定着率

	実播種量 個/10a	定着個体数 本/10a	定着率 %
不耕起播種機	6,536	5,785	88.5
耕起播種機	6,894	6,180	89.6

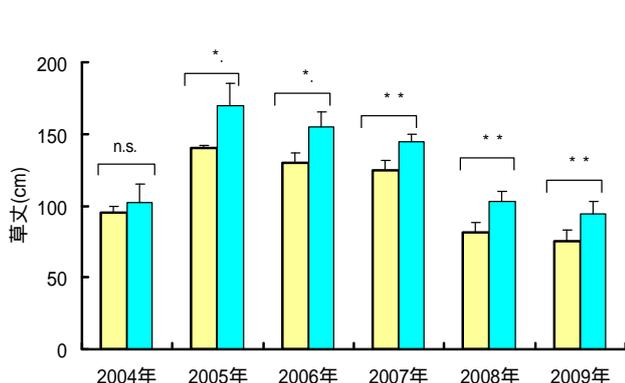


図 1 初期生育時の草丈

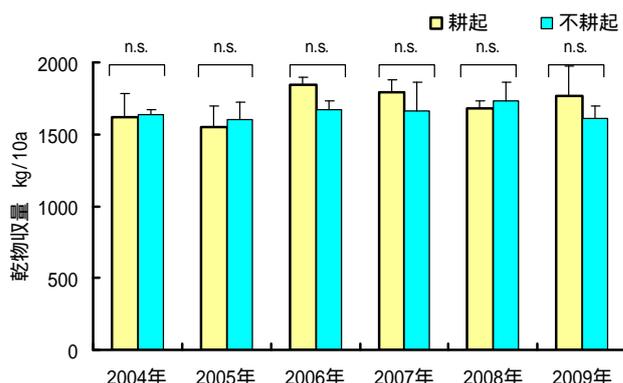


図 2 連続栽培におけるトウモロコシの乾物収量

n.s.は有意差無し、*は5%水準、**は1%水準で有意差があることを示す。
 岩手県農業研究センター畜産研究所圃場(標高 250m)で得られた成績である。

【留意事項】

- (1) 不耕起栽培は John Sheare NM9500/2、耕起栽培はタカキタ JS4105 にて播種を行った。
- (2) 播種深度を 2cm 程度とし、播種溝が十分にふさがるように鎮圧ホイールの圧力を強めに設定すると定着率の向上が見られる。
- (3) 排水の良い黒ボク土でトウモロコシの単作を行う場合に適用できる。
- (4) 連続栽培により雑草が増加するので、播種時のグリホサート系の非選択性除草剤 + 生育期のワンホープ乳剤、または播種直後の土壌処理剤 + 生育期のワンホープ乳剤により防除を行うこと。
- (5) 本成績はたい肥を使用せず化学肥料のみで行った成績である。現地事例ではたい肥の表面施用例もある。たい肥の施用方法等については検討中である。

【適応地帯】

岩手県内全域